



EAST HOKKAIDO BRANDING PROJECT

「道東」と呼ばれていた北海道の東側。でも、HOKKAIDO は世界ブランド。自分たちの呼ばれ方ひとつとっても、さらに魅力を磨いていかないと。そこで起ちあがったのが地域ブランディングのプロジェクト。北海道の右半分のことを〈ひがし北海道〉とし、そのエリアでコンテンツの連携・発信をしていく作戦です。実績 NO.1、その分野の第一人者で『ゼロクロ誌』の共同編集者・村尾隆介を招へいし、プロジェクトは進んでいます。



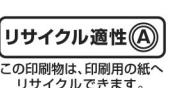
各商品のご注文はメールで
お問い合わせください。

zgoods@o-smi.co.jp

FSC®森林認証紙、ノンVOCインキ（石油系溶剤0%）など印刷資材と製造工程が環境に配慮されたグリーンプリント認定工場にて、印刷事業において発生するCO₂全てをカーボンオフセット（相殺）した「CO₂ゼロ印刷」で印刷しています。



ミックス
紙
FSC® C009309



リサイクル適性®
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。



GREEN PRINTING JPN

P-B10164



VOC
FREE™



ZERO®
CO₂
PRINT
BY OKAMA PRINTING

ZERO CHRONICLE

ISSUE #4

ゼロ・クロニクル | JAPAN

ISSUE #4 定価 475円 (税込)

発行 株式会社オオスマ

ゼロクロングッズ販売部
〒246-0008 神奈川県横浜市瀬谷区五貫目町20-17

17

ZERO CHRONICLE

ISSUE #4
SUMMER 2021

ひがし北海道にゆけば高まる
自然を守りたいという気持ち

PICK UP 1

IRBJ
MAEDA IPPOPEN FOUNDATION
HORSE COACHING
FROM HOKKAIDO
... and more



PICK UP 2

TOM TOM KIKIR
COMMUNITY HORSE
UGOKL
KAMA CLASS

日本の脱プラとゼロウェイストに貢献したい
Encouraging Zero Waste & Less Plastic

HELLO FROM
CO-EDITORS IN CHIEF

編集長からのごあいさつ

“守る”でも“守られる”でもなく 自然との共生を今こそ真剣に考える

『自然を守ろう』というと、強者(人)が弱者を守るように聞こえるかもしれません。私が思うに本当のところは逆で、『私たちは自然(地球)に守られています』ということだと思います。でも、守られっぱなしではありません。人間は古くからの知恵で、自然との共生を身につけてきました。敬い、感服し、そして時には手を入れる。そうやってこの地球上で暮らしてきたのだと思うのです。あまりに便利すぎる世の中に、私たちはそれを忘れないでほしい?ひがし北海道の大自然の様子からもう一度このことを真剣に考えていきたいと思いました。

Osumi.



TAKESHI OSUMI
OSUMI CEO | CHIEF EDITOR FOR ZERO CHRONICLE



RYUSUKE MURAO
BIZ BOOK AUTHOR | CHIEF EDITOR FOR ZERO-CHRO

ひがし北海道ブランドの構築と 同時に日本のエコ意識を高める

いわゆる“道東”を世界に通じる「ひがし北海道」という言葉にかえて、地域のチカラを結集するブランディングプロジェクト。そのクリエイティブディレクター就任を決めた理由のひとつは環境保全です。知床や阿寒湖などの大自然があるエリアからの発信は、日本全体のエコ意識を同時に高める活動も兼ねられると考えました。そのスタートが今回の『ゼロクロ』特集。地域ブランディングを学ぶオンラインカレッジも毎月開催中です。活動をフォロー頂けたら嬉しいです。

Murao

DIGITAL GIVE AWAY FOR YOU

もれなくもらえる読者ギフト FOR EVERYONE



“だけじゃない”フェアトレード 小さな会社のいじめ防止策に!

「フェアトレード」と聞けば、コーヒー豆や綿花等の原材料が思い起こされます。そして、それを買う企業が買い叩いていません・搾取していませんの証としてつけるのが「フェアトレードマーク」です。でも、ここに載っているのは、それとデザインや色が違いますよね? これはゼロクロ誌を共同編集するビジネス書作家・村尾隆介氏が10年以上前に考案したもの。大きな会社が、これをHPや印刷物に付けることで「私たちは、より小さな取引先にフェアに支払っています」を証明。また小さな会社が付けることで「私たちは正当な取引を望んでいます・行っています」のアピールに。ゼロクロ読者にも自由に使っていただこうと、ここにデジタル公開します。



フェアトレードロゴをタグにして商品につけるのもNICE!



#4
左のQRコードから、ダウンロードページへアクセスしてください。
どなたでもデータをダウンロードすることができます。
これまでのアーカイブもぜひご利用ください。

注) Adobe社のグラフィックソフト「Illustrator」がないと編集ができません。



HPに掲げて協力会社とフェアな取引をしていることを宣言



パッケージや箱包に入ることで商品の信頼度をアップ

ステッカーを
つくるなら!
<https://www.adprint.jp>
(参考) 1,000枚製作で
8,000円くらい

缶バッジを
つくるなら!
<https://www.secondpress.us>
(参考) 100個で
4,000~5,000円くらい

ワッペンを
つくるなら!
<http://www.jannu-2.com>
(参考) 10枚製作で
10,000円くらい

SECONDPRESS
<https://www.secondpress.us>
(参考) 100個で
4,000~5,000円くらい

PICK UP 1

クールな釧路に世界が熱視線 鳥と人が共生するまちづくり

#024 IRBJ

再エネ＆脱炭素時代＝ 鳥たちにも配慮が必要な時代！？

北海道でレンタカーを走らせ、「まわってるね」と風力発電のブレードを見て喜ぶ旅行者...。でも、前日にはバードストライクによって命を落としたオジロワシがいたかもしれません。またレンタカーにもEVが普及したら、その走行音は各段に静かに...。鳥たちとクルマが衝突する可能性は今より高くなるかもしれません。「だから、自動車が通るときに音が出るよう、道路に細工をします」と、使命感ある声と身振りで話すのは齊藤慶輔さん。「シマフクロウはカエルが出やすい道路を餌場にするため、クルマと接触する危険性があります。でもその手前で音が鳴るようにすれば、鳥たちは余裕を持って逃げられます」。この話すスピードと頭の回転なら、次から次にアイデアが出るのも納得。「見晴らしいところに止まる習性がある鳥たちの感電死を防ぐバードチェッカーも普及しています」と、これまでの実績、これからビジョンをたくさんシェアされました。



猛禽類医学研究所 代表 / 獣医師 齊藤慶輔さん

獣医師にできることは∞ 釧路の観光でさえも変える可能性

獣医師ながら、鳥たちが事故に巻き込まれれば刑事のように現場検証。その再発防止のために新しいインフラやツール類のアイデアを出し自ら開発する姿は、さながら建築士か建設会社の社員。その普及のために政府と交渉もするので（海外の政府とも！）政治家の顔も持ち合わせている齊藤先生。もちろん傷ついた鳥たちの治療・リハビリも釧路の猛禽類医学研究所で行っています。ここには齊藤先生の保全医学に触れようと、世界中から見学者がやってきます。「観光コンテンツとしても『あれはワシを守るものなんだよ』とマップを片手にバードチェッカーなどを見てもらえるといいなど...」新たに“観光業の人”にもコマを進めています。キーワードは『共生』ですが、そもそもすべては人間の勝手から始まったこと。「ロシアと日本を行き来するオオワシだって、かつては渡り鳥じやなかったんです。そう言われるようになったのは戦後に国境線が変わったからなんです」と教えてくれました。



猛禽類医学研究所

084-0922 北海道釧路市北斗2-2101
環境省釧路湿原野生生物保護センター内
Tel : +81-154-56-3465

irbj@irbj.net
<http://irbj.net/>



齊藤先生の活動の応援はグッズの購入でも可。本誌巻末の商品紹介ページでもシェアしています。

PICK UP2

「手をかけ続けなきゃアカン」 あたり前だと思うな阿寒の森を!

#025 MAEDA IPPOPEN FOUNDATION

はじめの一歩、そして永遠に 阿寒に大自然が残っているワケ

阿寒湖周辺は深い…。いや、これは森だけの話ではありません。この辺りの自然が美しい理由も深い! 阿寒湖一帯の広大な土地は〈前田一步園財団〉が管理しています。鹿児島がルーツの前田家が農場経営や山林事業に着手したことが始まり。それらの事業も「地方産業の模範になろう」と始めたことですが、『前田家の財産はすべて公共の財産となす』という家訓から、83年に3代目園主の前田光子が財団を設立。阿寒のアイヌコタンやキャンプ場等には財団が無償で土地を貸し、また湖畔に並ぶ宿泊施設やお店から得た収益は、エリアの自然を守るに使うという持続可能な仕組みを構築。前田一步園財団の名は初代園主 - 前田正名の座右『物ごと万事に一步が大切』からきていますが、明治時代に踏んだ“一步”が世界の人たちを魅了する、今日の阿寒の大自然の維持につながっているのです。財団では「永遠」というキーワードも大事にしています。次に、その長期ビジョンでの取り組みを紹介します…



前田一步園財団 自然普及課長 山本光一さん



同じ森に同じ生徒たちが毎年!? 大切な学びは単発で終わらせない

『自然は最高の師』とは財団を設立した3代目園主の光子さんの言葉。数ある財団の活動の中でも、その言葉通りのものをここに。…それは地元の小学生による植樹と森歩きです。珍しくないといわれそうですが、前田一步園財団の場合、同じ小学生を毎年森に呼んでいます。単発では終わらせず、学年があがるたび同じ森に入っています。子どもたちからの愛されキャラ・自然普及課長の山本光一さんはいいます。「植樹すると『いいことしたね』となりがちですが、天然の森と植樹した森は違います。様々な樹木が混在する天然の森に近づけるには人が手をかけ続ける必要があります。子どもたちには毎年来てもらい、それを教え伝えます」。なるほど“永遠”という言葉が軸の前田一步園財団、アクションも長期で考えています。「今日来た児童たちも、来年戻ってくると、森にまた違った考え方や感覚を持ちます」。これは森づくりだけれど、同時に人づくり。実際に学力もあがっていくのだといいます。



一般財団法人 前田一步園財団

085-0467 北海道釧路市阿寒町阿寒湖温泉1丁目5番2号
Tel : +81-154-67-2207

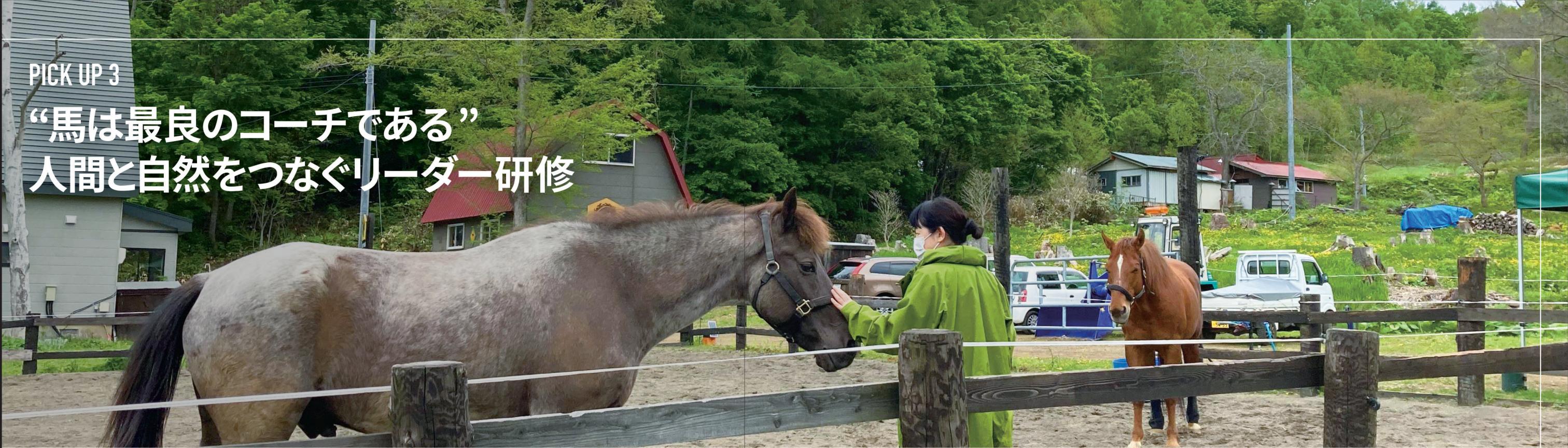
akanko@ippoен.or.jp
<https://www.ippoен.or.jp>



北海道教育大学附属釧路義務教育学校 3年生の植樹プログラムの様子

PICK UP 3

“馬は最良のコーチである” 人間と自然をつなぐリーダー研修



#026 HORSE COACHING

馬が“私”を照らし出す 牧場で究極の内省体験

小さな馬場で、1頭の裸馬と向き合う経営者のAさん。声をかけても、大声で怒鳴り散らしても、馬は一向に動かない。何も起きぬまま、持ち時間終了のアラームが鳴る。「馬とAさんの間には、今、何が起きていましたか？ 馬はなぜ、じっとしていたのでしょうか？」ファシリテーターからの問いかけにAさんはしばらく考え込み、ふと、つぶやきます。「私はもしかして、言葉に頼りすぎているのでしょうか？」これは、馬から学ぶリーダーシップ研修、ホースコーチングのワンシーン。馬の反応を通じて、自分の無意識の思い込みや行動パターンを見つけて、新しいタイプのコーチングメソッドです。この研修でお客さまに気づきや学びを提供するのは、人間ではなく、3頭の馬です。馬たちがコーチとなり、付度のない反応を返すことで、お客様の内面から湧き上がるような“内発的気付き”を生み出します。



株式会社 COAS 代表 小日向素子さん



馬と自然を守りながら、学ぶ ソーシャルビジネスとしての研修

ホースコーチングのプログラムは、札幌市内の小さな隠れ家、ビリカの丘牧場で実施しています。この牧場は、馬を中心に行く×学ぶ×暮らすが交わる場。馬は、どんな見た目・性格の馬でもコーチになります。そしてどの馬も、寿命が尽するまで共に暮らします。スタッフは、馬を守るために、自然環境との共生に意識を向けて暮らしの型をつくりあげます。つまり、ホースコーチングは、クライアントに学びの機会を提供するだけでなく、サービスの維持そのものが馬と自然の保全につながる、新しい形のソーシャルビジネスなのです。クライアントは、資生堂や奥迪といった大手企業、『世界のエリートはなぜ美意識を鍛えるのか』の山口周さん、NewsPicks関係の若手経営者など。最近は女性の参加者も目立ちます。クライアントのニーズに応えながら馬と自然を守るホースコーチング。これからの時代にフィットした、新しいビジネスモデルとなるかもしれません。



株式会社 COAS ビリカの丘牧場

063-0011 札幌市西区小別沢149-2

amii.abe@coashp.com
www.coashp.com





PICK UP 4

規格外の“お菓子屋さん” 北海道の小さなお店の挑戦



#027 OKASHI NO FUJII

俱知安の人気お菓子屋さん 香害の啓蒙活動を始めた理由とは

北海道俱知安に、人がわざわざこの店のためにやってくる、そんなお菓子屋さんがあります。その名もくお菓子のふじい>。経営するのは三代目の藤井千晶さん。お店で目につくのはキュートなオープンのキャラクターや黄色いグッズの数々。代替わりをしてからブランディングや販促に力を入れ、全国から人が訪れる魅力的なお店をつくりあげました。それだけで十分伝説の人だった千晶さんは、その後、思いがけず社会活動に取り組むことになり、その活動は社会に大きな影響を与えます。きっかけは2014年頃、和菓子職人の夫が化学物質過敏症を発症したこと。この症状は洗剤や柔軟剤等の香りがきっかけとなる新しい公害=香害とも呼ばれます。頭痛、吐き気、ぜんそく、鼻炎等症状はさまざまですが、重症化して日常生活がままならなくなる人も。認知が広がらず、職を失ったり、孤独に陥る人も多い事実を知り、当事者の家族として経営者として悩んだのち、2018年に香害の啓蒙と当事者が安心して暮らし、働ける場所を増やすことを目指す「カナリアップ」を立ち上げます。



お菓子のふじい 代表 藤井千晶さん



“環境”や“健康”への新たな視点 お菓子の可能性を信じる挑戦は続く

2019年にはクラウドファンディングで資金調達をした専用工場と寮が稼働。症状を持つ方の雇用にも取り組んできました。コロナの影響もあり現在カナリアップは休止中だが、それでも「可能性をまだ感じている」と千晶さんは語る。夫の症状は以前より緩和され、フルタイムで働くことができるよう。またニオイのない環境で食品をつくることに「意義」を感じるようになったとも教えてくれました。不要なニオイがつかないことは商品価値をあげることにつながるし、工場は化学物質や合成香料がないため、空気がクリーンで健康的。環境と健康という新たな視点が加わり、千晶さんは今、冷凍通販を活用したフードロス削減、素材にこだわった健康的なお菓子など同時に進行で挑戦を続けています。SNSでの発信力もふじいの得意技。つい最近もキュートな大福をSNSでバズらせました！ユニークに楽しくお菓子を魅せるスタイルを進化させながら環境や健康への配慮も忘れない。小さなお菓子屋さんの挑戦に、これからも目が離せない。



お菓子のふじい

- 044-0051 北海道虻田郡倶知安町北1条西3丁目4
Tel : +81-136-22-0050
- 9:00~18:00 (火曜定休)
- <https://sweets-fujii.com/>
- <https://support-canaria.com/>





PICK UP 5

ビジネスと社会貢献の好循環 スポーツ愛で会社と地域に力を

#028 BRAIN BALLPARK

北海道の高校生の憧れ！？ 小さな建築会社が愛される理由

「ある高校生スキー選手が『将来ブレインに入るのが夢なんだ』と、スキー場でロゴの入ったクルマを見て言ってくれたんだ」そう嬉しそうに教えてくれたのは、北海道千歳市にある建築会社くブレイン>代表の坂本茂敏さん。ご本人も全日本マスターズスキー大会で優勝経験もある現役のトップ選手。本業は建築会社だが、スポーツへの支援を惜しみなく行い、自身もトレーニングのために通うスポーツジムも経営。高校生スキー選手への支援、トップスキー選手への支援等…大好きなスポーツへの取り組みや支援は趣味の域をとっくに超越。特に社長もプレーする野球とスキーにかける愛情と支援は格別です。そのひとつが、千歳近郊の地域貢献のためにつくった室内野球練習場の<Brain Ballpark>。雪が多い北海道では冬になると屋外での練習ができなくなります。そこで千歳の野球少年のために室内野球練習場を建設&運営。子どもたちに無料で練習場を開放しています。



ブレイン株式会社 代表 坂本茂敏さん



社会貢献は継続してこそ 本業と両立させる秘訣とは

ブレインには現役アスリート社員が数多く存在。トップ選手は海外遠征も多く、仕事ができるのは一年の3分の1というケースも。社員として雇用しながらの支援はスキー業界でも有名で、冒頭の高校生の発言につながります。なぜ、地方のイチ中小企業がそこまでできるのだろうか？「私自身がサポートしているチーム、選手の活躍を心から楽しんでいるんですよ。夢見てきたことや憧れを選手に託しているのかもしれませんね」と坂本さんは笑って答えてくれました。スポーツへの感謝、地域への貢献を原動力に活動を続けています。最近はスキーや野球を通じた交友関係から、実際に住宅を依頼されることも多いそう。また、「スポーツのブレイン」が差別化になり、大手企業とコラボにつながったり、本業への依頼につながったりと、スポーツへの注力がビジネスといい循環を起こしています。坂本さんの言葉から感じるのは、スポーツへの愛と、また一方で強い建築への想い。社会貢献は継続してこそ。本業と両立させる社会貢献のスタイルは中小企業の今後のロールモデルになるはずです。

ブレイン株式会社

066-0076 北海道千歳市あずさ3丁目12番4号
Tel : +81-123-25-6630
Fax : +81-123-25-6631
info@brain-home.com
<https://brain-home.com/>



環境特化型新人研修 <KAMA CLASS>を 私たちがはじめた理由

本誌編集&発行をする「オオスミ」。環境を守ることそのものを事業とし、脱プラやゼロウェイストを広める活動をしているからこそ、新人研修も企業の環境への取り組みに一石を投じられるものを。そんな想いから「KAMA CLASS」は生まれました。今回は、研修の発案者で生みの親、大角武志社長の想い、その想いをカタチにするために奮闘した研修事務局スタッフ3名（友広洋子・平野あや・横井優香子）による対談をお楽しみください。

DISCUSSION with ZERO HERO
ゼロ・ウェイスト対談

第4回



友 広：まずは大角社長、今年から研修をリニューアルしようと思ったきっかけはなんだったのですか？

大 角：環境の会社ですから、これまでもちろん環境に関する新人研修は行っていました。廃棄物処理場や浄水場などオオスミの仕事に関わる外部施設見学会は毎年の恒例でした。

平 野：そうですよね。でも去年はコロナで中止…。

大 角：そう、コロナの影響で通常の新人研修ができませんでした。だからこそ今年の新人研修は、去年入社した社員と合同でコロナ禍でもできるオオスミらしい“ワクワクする”研修がしたい！と思ったんです。

横 井：ある意味コロナ禍だったからこそアイデアを絞って新しい挑戦をしたい、と始まったんですよね。

大 角：ヒントにしたのは、プライベートでも行っているビーチクリンナップ。プラスチックゴミはどこから来たのか？ワクワクしながら考えられるようにしたかった。ゴミ拾いにゲーム性を持たせたり、若い人にも楽しんでもらえるように工夫した企画にできないかなと思いました。事務局のみんなには、環境について体験しながら気づきを得たり、考えられる1日にしたいので協力してほしいと伝えたんだったよね。

平 野：プラスゴミ拾いは、環境への意識を高めるだけでなく、自分たちの事業に直結している点でもよかったです！仕事では、海や川に含まれるマイクロプラスチックを分析していますが、リアルにゴミ拾いを行って、波や風の影響でどこに溜まりやすいかを見たり、プラスチックが劣化して拾ったとたん碎けてしまうなど、マイクロ化の過程も体感できました。実際に仕事をしていくうえでも大いに役立つと思います。

友 広：準備で鎌倉のお店を色々と当たったとき感じたことですが、文化や歴史を大切にしている鎌倉は環境についても意識が高く、新しい考え方を取り込んでいる街だと思いました。また、海岸で拾ってきたプラスゴミは「かながわ美化財団」で引き受けいただけることになりましたが、その過程で人と人の繋がりや連携のよさを感じました。

平 野：その点でも“鎌倉”という街を選んでよかったですね。

横 井：私は座学を行う会場探しでとても悩みました。講師の方から古民家をそのまま利用した旧村上邸を紹介してもらい下見に行って、その雰囲気のすばらしさに感動しました。「ここしかない！」と確信しました。

大 角：旧村上邸は本当にすばらしかったですね。今後もぜひ使ってもらいたいよね。

友 広：あらためて環境を意識して準備しようとすると、実はできることが山ほどあることに気づきました。ゴミ拾いに使ったのは植物素材の生分解性レジ袋。マイクロプラスチックはガラス瓶に回収。動物性食品を使わないヴィーガンランチは、紙容器で風呂敷に包んで運びました。デザートはヴィーガンクッキー。また一方で、プラスチックをすべて排除するのはなかなか至難の業ということにも気づきました。

平 野：準備しながらあらためて考えたり、気づいたりすることができましたよね。

友 広：旧村上邸には、オオスミにも設置している水道直結のウォーターサーバーがあったので、持参したマイボトルに補充できたのも良かったです。多くの施設に誰でも利用できるウォーターサーバーがあれば、マイボトルを持ち歩く習慣もつきそうです。

横 井：研修翌日、参加した新人さんに会ったら、一日かなりの距離を歩いたにもかかわらず、疲れがないと言われて驚きました。研修なのに、リフレッシュになっていたようです。今後は、身近にできることから、行動するきっかけにならいいなと思います。そして、研修に参加したメンバーが次は研修を企画する立場で事務局として参加してくれる嬉しいなと思っています。

平 野：今回の研修は、お客様からの反響も大きかったです。「HPの新入社員研修のブログを見ました！すばらしい取り組みをされていますね！」と、お客様から直接言われても嬉しかったです。

友 広：事務局としても研修のなかで、オオスミの使命に繋がるような多くの気づきをいただき、研修の手応えを感じました。環境配慮を行う企業や人との出会いがあって、つながりができ、私たちもとても楽しく有意義な1日を過ごすことが出来ました。

大 角：この研修は準備をしっかりと、テーマを徹底的に守ったことが良かった。今後は、参加した人が伝道師となって、毎年続けていきたいと思いますし、せっかくなので外部向けにも提供していきたいです。お世話になったくなかがわ美化財団さんの支援も私たちにできることとして、決めました。今回の研修の成功は、綿密に計画をして段取りをしたからこそ成功。大変な準備をしてくれた事務局のみんなにもすごく感謝しています。ありがとうございました。

友 広：大変だったけども刺激的で楽しかったねと3人で話していました。これが“オオスミらしさ”的一つになるように、続けていきたいです。今日はありがとうございました！



Thanks to ZERO HERO!
We stand together to make'em ZERO!

WASTE(ゴミや無駄)をゼロに近づける企業のアイデアをシェア。全国の会社が「うちも負けない」と、いい意味で競うことを願って。

WE'RE ZERO-WASTE COMPANY

ゼロ・ウェイスト企業

トムトムキキル (北海道)



職場のDIYで捨てない選択 ▶ 塗る・貼る・絆深まる

スープカレーおたくの夫婦が散々食べ歩き行っていた矢...札幌清田区の〈トムトムキキル〉が職場DIYで店舗をリプランディング。ペイントは子どもが舐めて平気な本誌20ページでも紹介している〈アニースローン〉を使用。たった2日で、ここまでできる!モノを買わない・捨てない、お金をかけない、キズナを深める...何よりお客さまに語れる。職場DIYは、もっと日本に広がっていい概念です。オーナーの松原ご夫妻はいいます、「はじめてペンキ塗りをしましたが瞑想のようで最高でした」。

注目はオリジナルの壁紙。貼るのは職人に頼みましたが(本誌11ページのブレイン社に)、そのデザインは自分たちで。「壁紙じゃない部分はペンキで塗っています」と苦笑いをしますが、いい仕事しています。黄色と黒のドアもばっちり。お金をかけて内装業者さんに丸投げもできたはずですが...「だけど、それだと色々捨てるモノや新しい買い物が発生しちゃいますよね」。そう、職場のDIYはエコな選択なのです。

スープカレー専門店 トムトムキキル

① 004-0843
北海道札幌市清田区清田3条2丁目14-15
② & ③ 011-881-6280
④ 10:30-16:00 (15:30 L.O.)
定休日=日・月・満月の日
⑤ <https://www.facebook.com/tomtomkikir/>



WASTE(ゴミや無駄)をゼロに近づける企業のアイデアをシェア。全国の会社が「うちも負けない」と、いい意味で競うことを願って。

WE'RE ZERO-WASTE COMPANY

ゼロ・ウェイスト企業

COAS (北海道)



SDGs時代の新地域貢献 ▶ 1万円から馬のオーナーに

法人でも個人でも、1口1万円で札幌にいる3頭のウマたちの馬主になれる楽しい制度の誕生です。あなたたちのウマたちは札幌界隈の子どもたち・ご老人・障がいを持った方々と触れ合いながら、癒しや学びに活躍します。SDGsの「すべての人に福祉と健康を」や「質の高い教育をみんなに」、もちろん「住み続けられるまちづくりを」等を満たす、このシステム。皆で育てたり飼ったり、地域に(ウマを)役立てたりするこの制度は「コミュニティホース」といいます。いただいた会費はウマたちの

食べものや施設に使われます。ニュースレターやSNS、感謝状や常設のウェブカメラなど、会員の方々には多角的&頻度高いコミュニケーションを完備。ウマたちが地域に貢献している姿を日々発信!札幌にお立ち寄りの際は、直接お会いすることもできます。「ウマ飼っているんだ」と周囲にいえたら、きっと色んなことがウマくいくかも!?

株式会社 COAS

① 063-0011
北海道札幌市西区小別沢149-2
✉ amii.abe@coashp.com
② www.coashp.com



WASTE(ゴミや無駄)をゼロに近づける企業のアイデアをシェア。全国の会社が「うちも負けない」と、いい意味で競うことを願って。

WE'RE ZERO-WASTE COMPANY

ゼロ・ウェイスト企業

ウゴケル（北海道）



使い古したデニムをインテリアに ▶ 個性と理念の共存

『デニムをずっと穿けること=若々しさを維持できている証拠』をテーマに、地域住民はもとより、北海道中のトップアスリートのコソ練の場としても有名な「ウゴケル」。札幌・新琴似にある鍼灸整骨院+ユニークなパフォーマンス強化スタジオです。そのテーマの表現として、使い古したデニムをインテリアとして使用。長持ちする部類の衣類であるデニムを、さらに延命するカタチでエコ活動にも自然と貢献しています。「デニムをこんな風に活用することで、お店自体も若返りましたし、若い

世代のお客様も増えましたね」と、代表の杉田光輝さんはいいます。「もともとは引っ越しや、大幅な内装工事も検討していましたが、その手前にうちのような“不要になったものを活用した模様替え”もあっていいと思います」。大自然が残る北海道だからこそ、なるべく捨てない。その姿勢に次世代も、よりよい北海道づくりに貢献してくれることでしょう。

UgoKL

① 001-0905
札幌市北区新琴似5条11丁目2-16
② 011-788-7204

④ <http://www.ugokl.com/>



WASTE(ゴミや無駄)をゼロに近づける企業のアイデアをシェア。全国の会社が「うちも負けない」と、いい意味で競うことを願って。

WE'RE ZERO-WASTE COMPANY

ゼロ・ウェイスト企業

オオスミ（神奈川）



『環境を全身で感じる1日を過ごす』研修 ▶ 環境文化大使の育成

本誌を発行する環境コンサルの「オオスミ」。社内研修にもこだわりたい、と今年から環境特化型のユニークな新人研修をスタート。その名も「KAMA CLASS（カマクラス）」。プログラムは多彩。なかでも会場までユニークな方法で来ることを課すエクストリーム出社は特に印象的。登山して来たり、早朝に海岸でヨガをして待っていたり…参加者一人ひとりの個性が光るスタートに。海岸のプラゴミを拾い、重さを競う「プラスチックゲームズ」。企業とエコの関係を学ぶ「パタゴニア訪問＆ショッピング」。ブルガリア人講師

によるコミュニケーション講座。蜜蠟ラップのワークショップ。「環境を“自分ごと”としてとらえてほしい」として「感じたことを発信して周囲をまきこんで世の中をかえていく人になってほしい」と大角社長は語ります。環境というテーマは、どんな仕事でも無視できない時代になってきています。自分たちの仕事を新しい角度から見つめ直し、体感した彼らの今後の活躍が楽しみだ。

カマクラス参加メンバーの体験記は
次ページをご覧ください！

株式会社 オオスミ

① 246-0008
神奈川県横浜市瀬谷区五貫目町20番地17
② 045-924-1050(代)
③ 045-924-1055
④ <https://www.o-smi.co.jp>





KAMA CLASS

鎌倉でオオスミの野外クラス



マーケティング研修では、お客様が抱える問題について表面的な解決だけでなく、その背景もきちんと汲み取り問題の根本的な解決に注力する。目指すべきはそこにあるのではなく、かと改めて感じ、より一層業務に励もうと気合を入れおす研修となりました。



大角 武志
Takeshi Osumi

この企画を思いついたのはボランティアで行っていた海岸清掃。その時の気づきは3点。こんなに多くのごみが落ちているのだなという驚き、そのゴミを拾う活動をしている人たちが多いのだなという嬉しさ、そしてこの経験を多くの人に広めたいということ。のために新入社員研修の一環として始めた企画がこのカマクラス。大成功に終わったこのクラスを応用して、今度は一般の方たち向けの環境体験セミナーを計画中。是非一緒に環境の事を考えてみませんか？



本研修では実際に環境に触れ、自らが体験することにより多くの気付きがありました。そして、自然を感じながらの研修はとても有意義な時間であり、心身ともにリフレッシュが出来たように感じます。旧村上邸では、日本古来の情景も楽しむことが出来てとても貴重な経験が出来ました。本研修で学んだことを、業務にも積極的に取り込み、今後に生かしていきたいです。



人が生きるには非常に便利な時代ではあります。自然とともに生きている以上、自然が負け続けては長く続くものではありません。旧村上邸の雑草のように、自然とどうぞよく拮抗した競争をしていくために、自然にベースを合わせること、自然を競争できるように育てること、それが持続可能な発展ということなのではないかなと、今回、鎌倉の自然の中で「環境を全身に感じて」考えました。



旧村上邸では美しい景色の中で初めてのヴィーガン食をいただき、楽しみながら学ぶことができました。目的である環境を全身で感じる一日を過ごせたことで、より環境問題への自分のアンテナも高くなり、この日学んだ環境への姿勢や傾聴力を、多大な時間をかけてこの日の研修を準備してくださいました方々への御礼の気持ちも込めて、これから仕事に生かしていきたいです。今後は、社会にも個人にも影響力のある人を目指したいと思います。



ビーチクリーンをしている中で、他にも海岸清掃をしている方を多く見かけました。地球を大切にしたいという同じ思いをもつこのような人たちとの繋がりを深めていくことも環境を守る意識を大きく広げていく力になるのではないかと感じました。



コミュニケーションで大事なことは何なのかについて自分と違ったみんなの意見を聞けたことが特に印象に残りました。また、パーソナルスペースやうなづきのバリエーション、目元の表情についてなど、なかなか意識できていないことを学べたので、普段から意識していけるよう頑張ろうと思います。



ワークショップでは、蜜蠟ラップもラップを止める道具も再利用できるように工夫され、ラップ作りに使用した布も鎌倉の企業から使用しない布をもらっており、徹底して環境問題を良くしようとしていることが凄いと思いました。蜜蠟ラップのように日常の様々なところにごみをゼロにする工夫はたくさんあると思うのでこれからもオオスミ社員の一員としてエコロジカルな考えをもって行動していきたいです。

*Use it
As a team*



#001 ANNIE SLOAN PAINT |

価格は
お問い合わせください

英国のインテリアデザイナー発 DIY女子御用達の安心ペンキ！

15ページの「職場のDIY」でも紹介したペイントは〈アニースローン〉のもの。英国の女性で開発者の人物名が、そのままブランド名になっています。知識や経験一切無用。この安心・安全なペイントは急速に世界に広がっています。日本でいち早く販売を始めた鹿児島のお庭造りの会社〈SANPOH〉。〈アニースローン〉の独特なペイントの世界観を、ご夫婦で見事に表現。日本におけるファンづくりに貢献しています。

〈アニースローン〉の詳細 | <http://www.anniesloanjapan.com/>



お買い求め・お問い合わせ〈SANPOH 鹿児島〉 | <https://www.garden4everyone.com/>

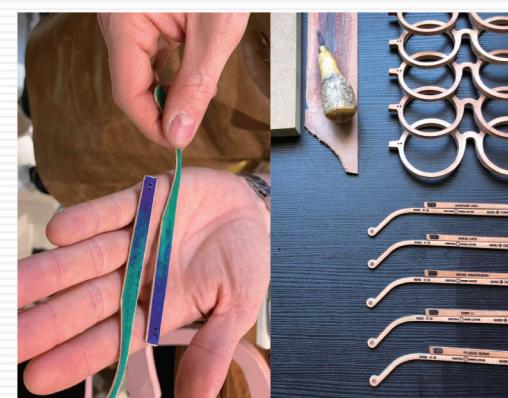
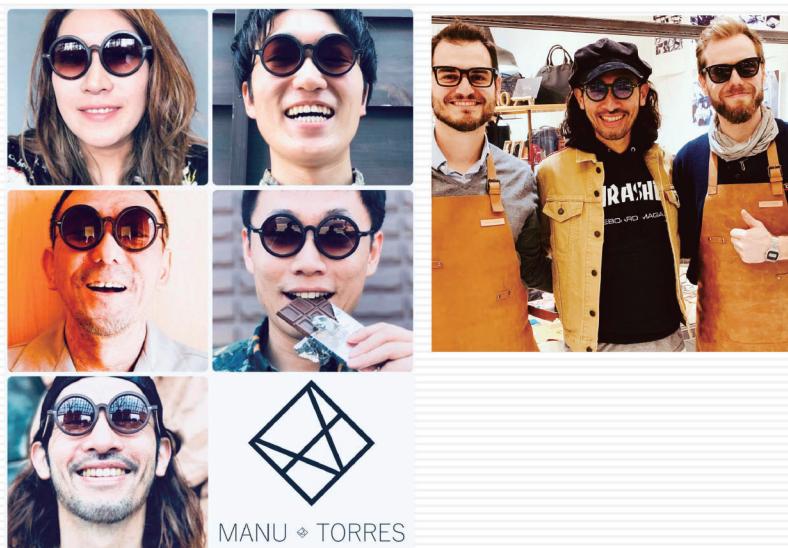
Use it
As a team



#002 MANU TORRES サングラス | ¥45,000~

サングラスはプラ製品
そしてアウトドアに落としがち

...と見出しがあるような、考えてみたら当たり前に気づいたスペインの青年がいます。そこで革のフレームでサングラスをつくるを仕事に！そこにアート性高いペイントを施し、世界にひとつの「大切にできるサングラス」を提供。日本にも進出したいと願っているので、ぜひ代理店・販売店を希望される方がいたら、私たちゼロクロ誌が起業した本人たちを紹介します。写真はコロナが世界に広がる直前に滞日した際のもの。



#003 猛禽類医学研究所グッズ |

価格は下記のオンラインショップ
を参照ください

欧米の自然保護団体並みの品揃え
ギフトに使って研究所の応援を

3ページの齊藤慶輔先生の猛禽類医学研究所。野生に戻れなくなった鳥たちも、そこで暮らしています。そのエサ代やケージ清掃の手数料など、それはお金がかかります。応援のためにもグッズの購入を。ギフト等にお使いください。Tシャツ・マステ・タンブラーなど種類は海外の団体並に豊富。サイト見るところです。



<http://www.irbj.net/shop/index.html>

*Use it
As a team*



HOMEMADE
ENERGY



#004 自分たちの会社専用の発電所 | いろいろな意味でPRICELESS お気軽にご相談ください

電気もホームメイドの時代へ
ホームメイドエナジー発売中！

脱炭素時代、会社を再エネで稼働させないと、欧米の会社と取引できなくなるかもしれません。〈ホームメイドエナジー〉は遠隔地に、あなたの会社専用の発電所をつくるサービス。ブロックチェーンの技術を用い、既存の電線を使って、首都圏にあるあなたの会社にピンポイントで自前の再エネを届けます。税制面で優遇も。



<https://www.de-denkoshा.co.jp/product/homemade-energy/>



#005 アーティスト+アップサイクル | 1本 ¥3,300 tax included

個性なきハンガーに個性を
愛着増でゴミは減らせる！

前号の〈ゼロクロ誌〉でも紹介した、ろう者の起業家が手がける〈コサイン〉。サイン（手話・看板類）のみでコワーキングスペースを運営する大阪のユニークな会社ですが、その空間で使用するグッズの販売も行っています。そのひとつが、このアップサイクルハンガー。アーティストが1本1本仕上げています。満足度高い！



<https://idaj.net/>

>> ORDER オーダー方法は裏表紙をご覧ください

*Use it
As a team*



#006 木のスプーン | ¥500 tax included

カルト的人気のスープカレー店 木のスプーンで気にかける

15 ページのスープカレー店 <トムトムキキル> がレジ横で売るオリジナルの木のスプーン。その収益は留学を希望する日本の学生たちへ向けた返済不要の奨学金となります。「銀のスプーンをくわえて生まれる子は幸せになるといいますが、この木のスプーンは子どもたちの夢と幸せの応援に」。ヨーグルトに最適なサイズです。



<https://www.facebook.com/tomtomkikir/>

>> ORDER

オーダー方法は
裏表紙をご覧ください



#007 KAMA CLASS |

¥8,800@1名 tax included

*複数でお申込みの場合、2人目以降は¥4,400円@1名
※8/18までにお申込みの場合、早割¥6,600円@1名
※学生は学割¥880円@1名（先着5名まで）

オオスミ社の社員研修 カマクラスを社外向けに

18 ページでシェアしたオオスミ社の〈カマクラス〉。『絶対に社外にも広げるべき』との声をいただき、ここにリリース。ビーチクリンナップ・ワークショップ・ブチセミナー・ヴィーガン弁当を通じて、鎌倉で環境を考える知的な1日。年齢制限なし。おひとりでも、お友だちや同僚とでも、ぜひお気軽にご参加ください。

【次回日程】

令和3年 9月 18日(土) 詳細は申込後に個別にお知らせします



zgoods@o-smi.co.jp | ※お問い合わせ&申込はメールで [カマクラス研修担当宛] まで



>> ORDER

オーダー方法は
裏表紙をご覧ください